

第 2 回 道路の将来交通需要推計に関する検討会 議事要旨

平成 20 年 6 月 9 日（月） 15:00～17:00

全国町村会館 2 F ホール B

<出席委員（敬称略、五十音順）>

石田、岡本、鈴木、豊田、原田、兵藤の各委員（根本委員欠席）

<議事要旨>**1. 将来交通需要推計の進め方について**

- ・最善の数学的モデルの作成を目指すと同時に、予測値の使い方、将来の状況変化に応じたモニタリングの仕方等を考えることも必要である。この点について、各委員からアイデアを出していただきたい。
- ・モデルの妥当性の検証について、将来推計値の妥当性をチェックするのは難しい。ここ数年間の動きを過去予測することでモデルの妥当性を検証することも考えてみてはどうか。

2. 背景シナリオの設定について

- ・可処分時間の伸びが原単位にどのように影響するかについて、過去のデータの検証が必要である。
- ・21 世紀ビジョンにおける労働生産性と労働力人口の関係や GDP の想定については、考え方の確認が必要である。
- ・将来のシナリオ設定に関しては、外部有識者の意見も聞きながら決めていきたい。

3. 近年の動向と推計モデルについて（旅客モデル）

- ・免許保有率の動向、特に若い年齢層の動向は地域によって異なることが想定されるので、地域別のデータが利用できないか検討して欲しい。
- ・例えば高齢者の原単位について、21 世紀ビジョンに合わせて 80 歳まで健康と想定するのか、それともこれまでのトレンドを反映するのか、など、今回行おうとしている推計は、どのようなシナリオや前提条件で行うものなのかを明確にする必要がある。
- ・女性の高齢者において、免許保有者数の前回推計値が実績値と大きく乖離している要因を確認して欲しい。

4. 近年の動向と推計モデルについて（貨物モデル）

- ・営業用貨物車の平均トリップ数が 2005 年で増加しているが、将来この傾向での増加は続かないと思われる。
- ・軽貨物車は自家用車と営業用車で分けて推計しているが、営業用軽貨物車の保有台数は非常に少ないのでサンプル数が十分なのか確認が必要である。

5. 近年の動向と推計モデルについて（全般）

- ・新たな推計において従来とは異なったフローに変更する部分について、その理由の説明を充実すべきである。

(文責 道路の将来交通需要推計に関する検討会事務局)